

令和元年度

一般会計

決算

教育委員会

一般会計（教育委員会）の決算概要（令和元年度）

（単位：千円）

款・項	予算額 A			支出額 B			翌年度 繰越額 C	不用額 A-B-C
	現年分	繰越分		現年分	繰越分			
教育費	55,837,206	1,708,605	57,545,811	53,408,475	1,481,722	54,890,197	1,648,429	1,007,185
教育総務費	6,692,380	0	6,692,380	6,453,919	0	6,453,919	23,316	215,145
小学校費	28,404,193	409,729	28,813,922	27,591,836	333,392	27,925,228	565,891	322,803
中学校費	16,238,639	1,250,357	17,488,996	15,111,303	1,109,262	16,220,565	916,648	351,783
高等学校費	1,240,330	35,817	1,276,147	1,210,553	28,492	1,239,045	0	37,102
幼稚園費	449,873	12,702	462,575	431,470	10,576	442,046	0	20,529
専修学校費	160,939	0	160,939	144,586	0	144,586	0	16,353
社会教育費	1,836,258	0	1,836,258	1,802,652	0	1,802,652	0	33,606
保健体育費	814,594	0	814,594	662,156	0	662,156	142,574	9,864
災害復旧費	2,454,873	38,280	2,493,153	2,438,990	37,699	2,476,689	13,158	3,306
熊本地震災害復旧費	2,454,873	38,280	2,493,153	2,438,990	37,699	2,476,689	13,158	3,306
合計	58,292,079	1,746,885	60,038,964	55,847,465	1,519,421	57,366,886	1,661,587	1,010,491

令和元年度

奨学金貸付事業会計

決算

教育委員会

奨学金貸付事業会計の決算概要（令和元年度）

歳入

（単位：千円）

款	項	目	予算額	調定額	収入額		収入未済額
繰入金	一般会計繰入金	一般会計繰入金	0	0	0	0	0
繰越金	繰越金	繰越金	9,138	9,138	9,138	0	0
諸収入	貸付金元金収入	奨学金貸付金元金収入	123,100	158,702	128,816	49	29,886
	雑入	雑入	0	10	10	0	0
合計			132,238	167,850	137,964	49	29,886

歳出

款	項	目	予算額	支出額	翌年度繰越額	不用額
奨学金貸付事業費	奨学金貸付事業費	奨学金貸付事業費	68,817	65,543	0	3,274
		奨学金貸付事業総務費	63,421	63,421	0	0
合計			132,238	128,964	0	3,274

歳入歳出差引額

合計	9,000（収入額－支出額）
----	----------------

令和元年度

決算状況報告書

教育委員会

1 事業の属性

政策名	生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	章・節	3・5
施策名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり	(方針)・事業	1・(3)
基本方針	結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境づくり		
主な取組	地域における子育て支援サービス及び地域主体の子育て支援活動の充実		
事業実施所管課(室)名	教育センター	事業コード	35 13

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	子育て支援センターなどを拠点とした子育て環境の整備や育児相談の充実による子育て世帯の不安解消を図ります。																																													
	子育て支援ネットワークや地域の子育てサークル・子育て支援団体の活動支援・育成を図り、地域との連携協力を推進します。																																													
実績	<p>○【復】幼稚園における子育て力向上推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園(6園)において、未就園児の保護者を対象に、子育て相談会、子育て講演会等を開催した。保護者同士で悩みを共有し合い、相談して解消することにより、保護者が主体的に子育てに取り組むことができるようなきっかけづくりを行った(実施回数 32回)。 	<p>令和元年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">合計額</th> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>財</th> <th>源金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>152</td> <td></td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>(152)</td> <td>使用料及び手数料</td> <td>(152)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</p>	合計額	財源内訳		財	源金	152		152	(152)	使用料及び手数料	(152)																																	
		合計額		財源内訳																																										
財	源金																																													
152		152																																												
(152)	使用料及び手数料	(152)																																												
検証指標、実績値の状況等	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">検証指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">基準値</th> <th colspan="4">実績値</th> </tr> <tr> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>R元年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	検証指標	単位	基準値				実績値				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																												
検証指標	単位			基準値				実績値																																						
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																																						

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○【復】子育て相談会、子育て後援会については、参加者を増やすため、各園は、保護者が参加しやすい日時を考慮し、開催した。また、園のホームページに年間計画を掲載するとともに、地域にチラシを配布する等の広報に努めた。
取組による成果と元年度に残った課題	○【復】親子でふれあう機会を作ることができ、未就園児の保護者の交流も生まれた。園のホームページを見て参加したという保護者も増えており、広報によって一定の効果がみられた。また、この事業に参加した未就園児が入園する事例もあった。相談会等は2月までに完了したことから新型コロナウイルス感染症の影響はなかったものの、R2年度の実施にあたっては、感染防止対策に取り組む必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	○【復】未就園児の保護者同士や園の教職員との交流をさらに深めるような取組を行う。また、子育て相談会や講演会等の開催に当たっては、保護者がより参加しやすい計画となるよう、引き続き参加しやすい日時を検討するとともに、ホームページ等を活用した広報に努める。また、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策として、実施時期の変更や密閉、密集、密接のいわゆる「3密」を避ける等の取組を行いながら実施する。

1 事業の属性

政策名	生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	章・節	3・5
施策名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり	(方針)・事業	1・(4)
基本方針	結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境づくり		
主な取組	保育サービス及び幼児教育の充実		
事業実施所管課(室)名	指導課、健康教育課	事業コード	35 14

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	待機児童の解消に向け、保育の量の拡充とともに、それを支える保育士の確保と処遇の改善を図ります。																									
	多様化する保育ニーズに対応するため、保育所・幼稚園などにおける保育サービスの充実を図ります。																									
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○幼・一般管理経費 <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園において、教育内容及び学習環境の充実を図るため、燃料光熱水費、施設修繕料、消耗品費等を措置し、円滑な幼稚園運営を行った。 ○幼・保健管理運営経費 <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園において学校保健安全法に基づき、幼稚園における園児及び職員の健康保持増進を図ることを目的とした健診や、環境衛生管理及び施設環境の整備を行った。 ○幼・給食管理経費 <ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な給食を園児に提供するため、害虫駆除、清掃、施設修繕及び器具修理を行った。 ・R元年10月1日から施行された幼児教育無償化に伴い、限庄幼稚園に対して副食費の補助を行った。 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="3">令和元年度決算額(単位:千円)</th> </tr> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">財源内訳</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">合計額</th> <th style="text-align: center;">財源</th> <th style="text-align: center;">金額</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">32,548</td> <td></td> <td style="text-align: center;">490</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(0)</td> <td>分担金及び負担金</td> <td style="text-align: center;">(0)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</td> <td>使用料及び手数料</td> <td style="text-align: center;">4,242</td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td style="text-align: center;">(0)</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: center;">27,212</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">(0)</td> </tr> </table>	令和元年度決算額(単位:千円)			財源内訳			合計額	財源	金額	32,548		490	(0)	分担金及び負担金	(0)	※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	使用料及び手数料	4,242	県支出金	(0)	一般財源	27,212		(0)
		令和元年度決算額(単位:千円)																								
財源内訳																										
合計額	財源	金額																								
32,548		490																								
(0)	分担金及び負担金	(0)																								
※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	使用料及び手数料	4,242																								
	県支出金	(0)																								
	一般財源	27,212																								
		(0)																								
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値																	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																	

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い一斉臨時休業が実施される中、市立幼稚園は休園しなかったため、消毒用アルコールを設置し、園児の登園時や外遊びの後に手洗い、うがいとともに手の消毒を行うなど、園児の衛生管理を徹底した。 ○国の制度として幼児教育の無償化が実施されたことに伴い、副食費の免除措置を行う限庄幼稚園に対し、給食費の減収分を補填する補助制度を設けた。
取組による成果と元年度に残った課題	○市立幼稚園の衛生管理を徹底するにあたって、手洗い場の蛇口が園児にとって手洗いしにくい構造であることや、足洗い場が不足していることが課題である。
検証値を踏まえた課題への対応	○市立幼稚園の衛生管理について、R2年度中に、各園で手洗い場の蛇口の改修や足洗い場の設置に取り組む。

1 事業の属性

政 策 名	生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	章・節	3・5
施 策 名	安心して子どもを産み育てられる環境づくり	(方針)・事業	2・(7)
基 本 方 針	援助を必要とする子どもや子育て家庭への支援		
主 な 取 組	社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭への支援		
事業実施所管課(室)名	総合支援課	事業コード	35 27

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	児童虐待の発生予防、早期発見及び児童への適切な支援を行います。											
	里親の拡充及び児童養護施設などの小規模化を推進し、家庭的な養育環境の整備を図ります。											
	障がい又は障がいの疑いのある子どもに関する相談、診察、検査、初期の療育などの支援を行います。											
実績	○幼稚園障がい児教育経費（ことばの教室） ・向山幼稚園と碩台幼稚園に設置している「ことばの教室」で構音等の指導を行った（利用者数 126人）。 ○幼稚園障がい児教育経費（あゆみの教室） ・川尻幼稚園に設置している「あゆみの教室」で、行動面、情緒面等の指導を行った（利用者数 22人）。						令和元年度決算額(単位:千円)					
							合計額		財 源		金 額	
							887		一 般 財 源		887	
							(0)				(0)	
							※下段()内の金額は復興計画事業分の金額					
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値			検証値					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度			

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○遊びを取り入れた個別指導やグループ指導を通して、一人ひとりのことばや行動及び情緒面等の課題に応じた指導や支援を行った。 ○「楽しい」「できた」という成功体験を積み重ね、「やってみよう」という意欲を高める支援を行った。
取組による成果と元年度に残った課題	○一人ひとりのことばや行動及び情緒面等の課題に応じた指導や支援を行ったことにより、課題の改善や、園等での生活における不安の解消につながった。 ○ことばや行動面、情緒面等の課題のほか、多様化する教育的ニーズに対応する必要がある。 ○「あゆみの教室」では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための小中学校の臨時休業の影響で、3月に予定していた引継会等、移行支援を実施できないケースがあった。
検証値を踏まえた課題への対応	○子ども発達支援センター等の関係機関と連携を図りながら、多様化する教育的ニーズに応じた指導や支援を行う。 ○「あゆみの教室」での指導を受けた子どもが、小学校での生活にスムーズになじめるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、可能な範囲で移行支援を進めていく。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	1・(1)
基本方針	徳・知・体の調和のとれた教育の推進		
主な取組	豊かな心を育む教育の推進		
事業実施所管課(室)名	指導課、教育センター、人権教育指導室	事業コード	41 11

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	感動・感謝する心や郷土を愛する心など、豊かに生きるための基盤となる道徳性を育成する教育の充実を図ります。																														
	社会的・職業的自立に向けた力と豊かな人間性を育むために、キャリア教育、自然体験や勤労体験などの体験的学習の充実を図ります。																														
実績	人権に関する理解を深め、豊かな人権感覚を育て、自分を大切にするとともに、他の人を大切にす教育の充実を図ります。																														
	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育総合支援事業、心の教育・体験学習推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、スポーツ、芸能等で著名な郷土出身者とのふれあいを通して夢を育み、よりよく生きる意欲を高めた(実施校54校)。 ・道徳教育推進研修会を開催し、「特別の教科 道徳」の実施に係る効果的な取組等について説明した(実施回数 3回)。 ○水俣に学ぶ肥後っ子教室経費 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生が水俣市を訪問し、体験活動を通して、公害被害から環境再生に至る取組を学習した。 ○子どもフォーラム開催経費 <ul style="list-style-type: none"> ・希望があった小学校6校、中学校1校で、子どもフォーラムを開催した。 	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">令和元年度決算額(単位:千円)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">財源内訳</th> </tr> <tr> <td>合計額</td> <td>財</td> <td>源金</td> </tr> <tr> <td>37,889</td> <td>国庫支出金</td> <td>2,440</td> </tr> <tr> <td>(0)</td> <td>県支出金</td> <td>7,937</td> </tr> <tr> <td>※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</td> <td>諸収入</td> <td>7,938</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td>19,574</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(0)</td> </tr> </table>							令和元年度決算額(単位:千円)			財源内訳			合計額	財	源金	37,889	国庫支出金	2,440	(0)	県支出金	7,937	※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	諸収入	7,938		一般財源	19,574		
令和元年度決算額(単位:千円)																															
財源内訳																															
合計額	財	源金																													
37,889	国庫支出金	2,440																													
(0)	県支出金	7,937																													
※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	諸収入	7,938																													
	一般財源	19,574																													
		(0)																													
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値			検証値																								
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																						
	小中学校における道徳教育の校内研修実施校数	校	117	120	130	132	124	134	136																						
道徳の時間に学んだことを自分の生活に生かしていると思う子どもの割合(小5、中2)	%	小5 82.8 中2 74.1	小5 85.1 中2 75.9	小5 80.9 中2 66.1	小5 86.5 中2 72.0	小5 83.8 中2 73.2	小5 83.2 中2 74.5	小5 83.6 中2 74.9																							

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○国の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を活用し、計画的な校内研修の体制整備や道徳教育の推進を呼びかけた。また、道徳教育推進教師を対象に大学教授等による演習を交えた指導を行い、道徳教育推進教師が校内研修を行うことで、各学校における授業力の向上を図った。 ○心の教育・体験学習推進経費では、市教委が外部講師と折衝することで、学校の負担軽減を図った。また、各学校が道徳教育重点内容項目を意識した講師を選定するようにした。 ○子どもフォーラムの実施校が増えるよう、校長園長会で周知連絡等を行った。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育推進教師への研修については、演習や協議を取り入れたことにより実践的指導力の向上につながり、次年度の演習の継続に係る要望が多かった。「特別の教科 道徳」の全面実施後、小学校において校内研修の実施校が減少していることが課題となっている。 ○心の教育・体験学習推進経費については、講師の人数が少なく、実施できる学校数が限られている。 ○子どもフォーラムについては、継続している学校の取組内容が充実してきている。今後も子どもの意見表明の場を確保するため、より多くの学校で開催されるよう、啓発周知に努めていく必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の推進については、校内研修の実施校を増やすために、研修で活用できるデータを作成し、学校と共有するなど、校内研修を実施しやすいよう、学校を支援する。 ○心の教育・体験学習推進経費については、講師の人数を増やすとともに、幅広い分野の講師を確保できるように努める。 ○子どもフォーラムの開催校が増えるよう、申込方法の簡略化、募集期間の延長、分かりやすい説明資料の準備等を行う。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	1・(2)
基本方針	徳・知・体の調和のとれた教育の推進		
主な取組	確かな学力を育む教育の推進		
事業実施所管課(室)名	学校改革推進課、市立図書館、指導課、教職員課、教育センター、必由館高校、千原台高校	事業コード	41 12

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	少人数学級や少人数指導など、きめ細かな指導を通して、自ら学ぶ楽しさや分かる喜びのある授業づくりを進め、学力の向上を図ります。 校内研修や派遣研修などを実施するとともに、本市を担う若手教職員の育成を強化しながら、教職員の指導力の向上を図ります。 国際理解、ICTの活用能力や環境など、社会の変化に対応した教育を充実させ、子どもたちの意欲・関心を高めるとともに個性や能力を伸ばします。							
	実績	○教職員研修経費、授業力向上支援員派遣経費 ・授業力向上支援員を増員し、校長等の相談に応じて指導・助言を行った。また、学校訪問に同行し、指導等を行った。 ○外国語教育推進経費 ・新学習指導要領の全面実施に向け、新しい外国語教育に対する理解を深め、指導力、英語力の向上を図る研修を行った。 ○教育の情報化推進経費 ・小中学校の先行導入校に加え、全ての小学校にタブレット端末を配備し、活用を推進するための研修等を行った。 ・産学官の連携により「ICT教育モデルカリキュラム2020年度小学生版」の作成や、プログラミング教育の普及等に取り組んだ。 ・全国規模のシンポジウム等で、本市の取組を発信した。 ○地域教育情報ネットワーク経費 ・ICT支援員の増員等により効果的な活用支援体制を構築した。 ○高校改革関連経費 ・市立高等学校等改革検討委員会を設置し、市立高校及び専門学校改革の方向性について議論し、答申がなされた。	令和元年度決算額(単位:千円)					
			財源内訳					
		合計額	財		源			金額
		2,640,101	使用料・手数料					3,301
		(0)						(0)
		※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	国庫支出金					8,708
								(0)
			県支出金					4,217
								(0)
		その他					67,434	
							(0)	
		一般財源					2,556,441	
							(0)	
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	実績値				検証値	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度 R5年度
	授業力向上支援員の派遣回数(小・中)	回	600	638	678	705	1,042	635 670

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○授業力向上支援員を増員するとともに、ニーズに合った研修を実施できるよう研修のプランを増やした。 ○外国語教育については、有識者を招いた研修会や、新教材の活用のための研修会等を実施した。 ○タブレット端末の活用については、学校間の差をなくすため、学習用アプリケーションの利用状況データをもとに、指導主事、ICT支援員が支援を実施した。 ○市立高校及び専門学校の改革について、各校の在校生を検討委員会の委員としたほか、各校において、生徒、教員、保護者等を交えたワークショップを開催するなど、当事者の声を聴く機会を積極的に設けた。
取組による成果と元年度に残った課題	○授業力向上支援員を増員したことで、大幅に増加する小中学校での派遣要望に対応することができた。 ○小学校における外国語教育の教科化、中学校英語教育の高度化にあたり、教員の指導力向上が課題である。 ○R2年度、小学校においてプログラミング教育が必修化されたことに加え、全ての小中学校においてタブレット端末の運用を開始したことから、各学校において、タブレット端末を更に活用していくことが課題である。
検証値を踏まえた課題への対応	○授業力向上支援員については、派遣依頼の手続きの簡素化や、グループウェアによる連絡調整の推進により、学校による支援員の活用を更に推進していく。 ○英語教育については、モデル校での取組を活かし、効果的な授業方法についての研修を更に充実させる。 ○教育の情報化については、ICT支援員の更なる増員や、Web会議システムを活用した、時間や場所の制約が少ない形式での研修の実施等、各学校をサポートする体制の更なる充実を図る。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	1・(3)
基本方針	徳・知・体の調和のとれた教育の推進		
主な取組	健やかな体を育む教育の推進		
事業実施所管課(室)名	青少年教育課、指導課、健康教育課	事業コード	41 13

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	生涯にわたって健康的な生活を送ることができるよう、子どもの基本的な生活習慣を育成するとともに、食育を推進します。																																			
	運動の楽しさに触れ、運動習慣の確立につながるような取組を進め、子どもたちの体力の向上を図ります。																																			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食物資共同購入経費 <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消推進のため、関係機関と連携し、35品目を導入した。 ○学校給食・食育推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や学校栄養職員が家庭科等の授業や給食試食会等を活用し、食育の推進を図った。 ○小学校給食調理等業務委託経費、共同調理場調理等業務委託経費 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校85校中31校、共同調理場13場中12場を委託した。 ○子どもの健康づくり・体力向上推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ・肥満度20%以上の4年生児童に小児生活習慣病予防健診を実施した。小学校23校にスポーツ指導者を派遣し、直接指導した。 ○いのちを守る教育推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ・性に関して科学的な知識と正しい判断力を身につけ、適切な行動選択をできるように、産婦人科医等の専門家を中学校に派遣し、「いのちの大切さを考える講演会」を実施した(6校)。 ○給食室等熱中症対策経費 <ul style="list-style-type: none"> ・給食調理員に冷却ベストを配布した。共同調理場の前室(作業準備室)に空調設備を整備した。 	<p style="text-align: center;">令和元年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">合計額</th> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <td>2,188,532</td> <td>26,380</td> <td>分担金及び負担金</td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>(192,167)</td> <td>(0)</td> <td>使用料及び手数料</td> <td>782</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(0)</td> <td>県支出金</td> <td>3,862</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(0)</td> <td>諸収入</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,157,308</td> <td>一般財源</td> <td>(192,167)</td> </tr> </table> <p>※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</p>	合計額		財源内訳		2,188,532	26,380	分担金及び負担金	(0)	(192,167)	(0)	使用料及び手数料	782		(0)	県支出金	3,862		(0)	諸収入	200		2,157,308	一般財源	(192,167)										
		合計額		財源内訳																																
2,188,532	26,380	分担金及び負担金	(0)																																	
(192,167)	(0)	使用料及び手数料	782																																	
	(0)	県支出金	3,862																																	
	(0)	諸収入	200																																	
	2,157,308	一般財源	(192,167)																																	
検証指標、実績値の状況等	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">検証指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="2">基準値</th> <th colspan="4">実績値</th> <th colspan="2">検証値</th> </tr> <tr> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>R元年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国との比較(全国平均を50とした場合の熊本市の値)</td> <td>小5(男子/女子)</td> <td>50.6/ 50.9</td> <td>49.5/ 49.6</td> <td>49.7/ 49.7</td> <td>50.0/ 49.8</td> <td>50.1/ 50.1</td> <td>51.0/ 51.0</td> <td>51.5/ 51.5</td> </tr> <tr> <td>中2(男子/女子)</td> <td>49.7/ 49.2</td> <td>48.9/ 48.7</td> <td>49.6/ 49.6</td> <td>49.7/ 49.3</td> <td>49.5/ 49.5</td> <td>50.0/ 50.0</td> <td>50.5/ 50.5</td> </tr> </tbody> </table>	検証指標	単位	基準値		実績値				検証値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国との比較(全国平均を50とした場合の熊本市の値)	小5(男子/女子)	50.6/ 50.9	49.5/ 49.6	49.7/ 49.7	50.0/ 49.8	50.1/ 50.1	51.0/ 51.0	51.5/ 51.5	中2(男子/女子)	49.7/ 49.2	48.9/ 48.7	49.6/ 49.6	49.7/ 49.3	49.5/ 49.5	50.0/ 50.0	50.5/ 50.5	
検証指標	単位			基準値		実績値				検証値																										
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																												
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国との比較(全国平均を50とした場合の熊本市の値)	小5(男子/女子)	50.6/ 50.9	49.5/ 49.6	49.7/ 49.7	50.0/ 49.8	50.1/ 50.1	51.0/ 51.0	51.5/ 51.5																												
	中2(男子/女子)	49.7/ 49.2	48.9/ 48.7	49.6/ 49.6	49.7/ 49.3	49.5/ 49.5	50.0/ 50.0	50.5/ 50.5																												

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食物資共同購入では、納入組合等の関係機関と連携し、本市産の農産物の導入に努めた。 ○子どもの健康づくり・体力向上推進経費では、専門性の高い講師を派遣することで、教職員の指導力向上につなげた。課題であった握力の向上については、握力を高める器具の整備や、雲梯や登り棒を活用した運動の実施等、各学校での創意工夫により全国平均を上回ることができた。 ○「いのちの大切さを考える講演会」については、事前に産婦人科医会と内容協議するとともに、養護教諭会と連携して模擬授業を行うことで、講演内容や伝え方を工夫した。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食物資共同購入では、引き続き、地場産物の品目の増加に努める必要がある。 ○熊本地震直後に比べると子どもの体力は改善傾向にあるものの、一部の種目で全国平均を下回っており、今後も継続して体力向上に取り組む必要がある。 ○いのちの大切さを考える講演会について、生徒の感想は非常に好評であったものの、講演会の対象となる学年が限られていることが課題である。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○地場産物の導入については、収穫量の増減が影響するものの、納入組合等の関係機関に対し働きかけ、対象品目の増加に向けて取り組む。 ○子どもの運動意識を向上させるため、体育主任研修会等において、運動の楽しさに触れ、授業以外の時間に継続して楽しむことができる授業研究の共有を図る。また、男女共通して全国平均を下回る種目については、研修会で運動例を提示するなど、重点的に取組の推進を図る。 ○いのちの大切さを考える講演会については、産婦人科医会と連携して内容を検討するなど、対象学年の拡大に向け、計画的に取り組む。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	2・(4)
基本方針	子ども一人ひとりを大切にすの教育の推進		
主な取組	教員が子どもと向き合う時間の拡充		
事業実施所管課(室)名	教育政策課、指導課、教職員課、総合支援課、健康教育課、教育センター	事業コード	41 24

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	学校を取り巻く様々な課題解決の支援を行う体制を充実させ、教員が子どもと向き合う時間の拡充を図ります。																																			
	学校におけるマネジメント力を強化するための新任管理職を中心とした研修プログラムや、校務支援の充実を図るなど、効果的・効率的な学校運営を推進します。																																			
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育コンシェルジュ設置経費 <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に関するあらゆる相談に対し、学校教育コンシェルジュ(4名)を配置した(対応件数 1,237件)。 ○学級支援員派遣経費 <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に支援を要する学校(136校)に学級支援員を、医療的ケアの必要な児童が在籍する学校(12校)に看護師を配置した。 ○教職員研修経費 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のキャリアステージに応じた資質や指導力の向上を図るため、経年者研修を実施した。 ・管理職を対象として、学校改革等をテーマに研修を実施した。 ・採用4年目から10年目までの教員を対象に指導力向上を図る、教師塾「きらり」を開催した(開催回数12回)。 ○校務支援システム経費 <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムを活用し、教職員の業務を効率化した。 ○給食費公会計化等関連経費 <ul style="list-style-type: none"> ・給食費の公会計化に向け、保護者への周知や学校事務職員等を対象とした説明会の開催、システムの構築等を行った。 	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">令和元年度決算額(単位:千円)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>合計額</th> <th>金額</th> </tr> <tr> <td>340,313</td> <td>58,984</td> </tr> <tr> <td>(0)</td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</td> <td>281,329</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(0)</td> </tr> </table>	令和元年度決算額(単位:千円)		財源内訳		合計額	金額	340,313	58,984	(0)	(0)	※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	281,329		(0)																				
		令和元年度決算額(単位:千円)																																		
財源内訳																																				
合計額	金額																																			
340,313	58,984																																			
(0)	(0)																																			
※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	281,329																																			
	(0)																																			
検証指標、実績値の状況等	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">検証指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>基準値</th> <th colspan="4">実績値</th> <th colspan="2">検証値</th> </tr> <tr> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>R元年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校教育コンシェルジュの対応件数</td> <td>件</td> <td>-</td> <td>967</td> <td>1,201</td> <td>1,093</td> <td>1,237</td> <td>1,050</td> <td>1,250</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	検証指標	単位	基準値	実績値				検証値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度	学校教育コンシェルジュの対応件数	件	-	967	1,201	1,093	1,237	1,050	1,250	※									
検証指標	単位			基準値	実績値				検証値																											
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																												
学校教育コンシェルジュの対応件数	件	-	967	1,201	1,093	1,237	1,050	1,250																												
※																																				

※H28年度からの取り組みのため、H27年度基準値なし。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○学級支援員を学校規模に応じて複数配置し、効果的な配置となるよう努めた。 ○教職員研修経費では、「主体的・対話的で深い学び」を教員自身が体験できるよう、対話的でアウトプット中心の研修を実施した。研修ではタブレットを使用し、スキルの向上を図った。また、管理職研修では、実態に即した内容に加え、学校経営力の向上を図るため、学校改革をテーマとした研修等を実施した。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○学級支援員は支援を要する学校に適切に配置していく必要があるが、学校において支援を要するケースが多く、また、学級支援員の人材も不足しており、要望に対応できない場面があった。 ○教職員研修については、教職員の負担を軽減するため研修の回数を見直すことで、研修の質が損なわれないように取り組む必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○学級支援員については、勤務条件を見直し、人材の確保を図るとともに、積極的な学校訪問等により学校や児童生徒の状況を把握し、要望に応じ、的確に配置できるよう努める。 ○教職員研修では、内容の精選を更に行うとともに、「教員の資質向上に関する指標」を活用した研修で教員の質の向上を図る。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	2・(5)
基本方針	子ども一人ひとりを大切に教育の推進		
主な取組	教育相談体制の充実		
事業実施所管課(室)名	総合支援課	事業コード	41 25

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	いじめや不登校等の教育に関する相談に対して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家との連携を図りながら、課題解決に取り組みます。									
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】スクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業 <ul style="list-style-type: none"> ・学校にSSWを派遣した。（対応件数 736ケース） ○【復】スクールカウンセラー（SC）配置事業 <ul style="list-style-type: none"> ・学校にSCを配置した。（相談件数 10,431件） ○【復】いじめ・不登校対策経費 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に心のサポート相談員を配置した。（相談件数7,094件） ・市内の中学生を対象に、SNS（LINE）を活用した悩み相談を実施した。（相談件数 2,295件） ○いじめ防止対策推進法関連経費 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本市いじめ防止等対策委員会を開催した。（開催回数 2回） ○【復】教育相談等経費 <ul style="list-style-type: none"> ・発達、就学、いじめ、不登校等に関する相談を実施した。（相談件数 2,610件） 	令和元年度決算額(単位:千円)		財源内訳						
		合計額	財	源	金	額				
		149,237 (147,720)	国庫支出金			55,235 (55,235)				
		※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	一般財源			94,002 (92,485)				
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値				検証値		
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度	
	教育相談室への来所による相談件数	件	2,773	2,890	2,903	2,584	2,610	3,000	3,100	
	【復】震災に伴うカウンセリングが必要な児童生徒数(小・中) ※	人	-	465	953	874	425	100	減少	

※震災対応に特化した検証指標のため、基準値（H27年度末）は設定しない。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】不登校対策を推進する中学校区（2校区）に対し、SC、SSW、不登校対策サポーターを重点的に配置し、学校と専門家が連携して不登校対策を実施した。 ○【復】SCを全中学校区（42校区）に配置することで、全小学校にも対応できる体制を整えた。 ○熊本市いじめ防止等対策委員会では、学校現場の実情を踏まえた具体的な対応や対策を審議した。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】地震に伴う心のケアのため、カウンセリングが必要な全ての児童生徒が相談できる体制を整えた。今後も長期的に、適切に対応していく必要がある。 ○【復】来所相談の内容は多様化、複雑化、困難化しており、対応には高度な専門的知識が必要である。また、新規相談者の受付までに日数を要することがあった。 ○【復】不登校対策を推進する中学校区においては、不登校の増加を抑制することができた。今後も不登校傾向にある児童生徒への早期対応を更に推進する必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】地震に伴うカウンセリングが必要な児童生徒を的確に把握し、今後も適切にSCを配置する。 ○【復】医師や臨床心理士、言語聴覚士による専門相談と連携し、適切な教育相談を実施する。 ○【復】不登校対策を推進する2中学校区に対し、引き続き、SC、SSW、不登校対策サポーターを重点的に配置し、教員と専門家が連携して不登校対策を実施する。 ○【復】SSWを拠点校に配置し、近隣の学校を担当する形式とすることで、より早期の相談対応ができる体制とし、各学校での相談の活性化と支援の向上を図る。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	2・(6)
基本方針	子ども一人ひとりを大切にす教育の推進		
主な取組	特別支援教育の推進		
事業実施所管課(室)名	学校施設課、指導課、総合支援課	事業コード	41 26

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	特別な教育的支援を要する子どもたちに適切な支援を行うため、教職員の専門性の向上や個別の指導計画の作成・活用などを通して、支援体制の充実を図ります。								
	市立特別支援学校高等部及び小・中学部の整備を進めます。								
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校建設事業(小・中学部) <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校小・中学部となる熊本市立あおば支援学校の建設(2年目/2ヵ年)及び交流学习の場となる城東小学校、藤園中学校の施設の改修を行った。 ○笑顔いきいき特別支援教育推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックごとの研修会や特別支援教育コーディネーター等の研修会を開催するとともに、校内研修会等に、専門家や巡回相談員を派遣した(派遣回数 144回)。 	令和元年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		1,045,310 (0)	国庫支出金			320,390 (0)			
※下段()内の金額は復興計画事業分金額	市	債		512,100 (0)					
	一般	財源		212,820 (0)					
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値				検証値	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度
	特別支援教育にかかる校内研修会の開催回数(幼・小・中・高)	回	550	565	544	476	444	560	570

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○特別支援教育に係る校内研修会やブロック研修会における専門家等の積極的な活用を学校に奨励した。また、特別支援学級等に在籍する児童生徒の進学時における引継ぎを適切に行うため、各児童生徒の「移行支援シート」を作成し、保護者や学校に周知するなど、活用を促進した。
取組による成果と元年度に残った課題	○校内研修会やブロック研修会に専門家等を派遣することで、特別支援教育に関し、各学校や地域が抱える課題に対し、実態に応じた具体的な助言や支援ができた。 ○特別支援教育の対象となる子どもは増加傾向にあることから、教職員の専門性の向上、子どもの実態に応じた適切な学びの場の確保等、支援体制の充実を図る必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	○特別支援教育に係る校内研修については、全ての学校・園において、年に1回以上開催している状況であり、一定の回数は確保できている。今後も、特別支援教育について、教職員の専門性の向上や支援体制の充実を図るため、各学校・園の状況に応じた校内研修等を実施する。 ○2つの特別支援学校の施設や人的資源を活かし、市立の幼稚園、小中学校及び高校の教職員を対象として、特別支援教育に関する研修を提供する。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	3・(7)
基本方針	安全で良好な教育環境の整備		
主な取組	最適な学習環境の整備		
事業実施所管課(室)名	学校施設課、指導課、健康教育課、必由館高校、千原台高校	事業コード	41 37

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	<p>小中学校のエアコン整備や校舎の老朽化対策、施設の改善により、安全で良好な学習環境の整備を進めます。</p> <p>子どもたちが豊かな人間関係を築き、最適な環境で学習できるよう、学校規模の適正化や校区の見直し・弾力化を進めます。</p>																																							
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○空調設備整備経費 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の特別教室（調理室、被服室、木金工室、美術室等）に、空調設備設置工事を行った。 ○義務教育施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・児童数の増加に伴う校舎増築工事（託麻東小 2年目/2ヵ年 田迎南小 1年目/2ヵ年）、老朽化した体育館の改築工事（二岡中 1年目/2ヵ年）等を行った。 ○【復】学校施設等災害復旧経費 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震で被災した学校施設等の復旧工事等を行った。 ○小・給食室施設整備（維持）経費 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校給食室の雨漏り対策のため、屋根改修工事を行った。（小島小） ・小学校給食室の大規模改修工事（ドライ改修工事）の設計を実施した。（託麻東小） ○中・共同調理場施設整備経費 <ul style="list-style-type: none"> ・共同調理場の雨漏り対策として、屋根改修工事を行った。（井芹共同調理場） 	<p>令和元年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">合計額</th> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>財源</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,605,339</td> <td>使用料及び手数料</td> <td>213,281</td> </tr> <tr> <td>(2,481,938)</td> <td></td> <td>(5,897)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</td> <td>国庫支出金</td> <td>1,557,718</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(1,052,368)</td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td>28,146</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>3,489,113</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(1,422,499)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td>3,317,081</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(1,174)</td> </tr> </tbody> </table>							合計額	財源内訳		財源	金額	8,605,339	使用料及び手数料	213,281	(2,481,938)		(5,897)	※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	国庫支出金	1,557,718		(1,052,368)	県支出金	28,146		(0)		その他	3,489,113			(1,422,499)		一般財源	3,317,081			(1,174)
		合計額	財源内訳																																					
財源	金額																																							
8,605,339	使用料及び手数料	213,281																																						
(2,481,938)		(5,897)																																						
※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	国庫支出金	1,557,718																																						
		(1,052,368)																																						
	県支出金	28,146																																						
		(0)																																						
	その他	3,489,113																																						
		(1,422,499)																																						
	一般財源	3,317,081																																						
		(1,174)																																						
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値			検証値																																	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																															
	小・中学校普通教室への空調設備整備進捗率	%	0.7	0.7	66	100	100	100	100																															
	【復】学校施設の復旧事業進捗率(幼・小・中・高) ※	%	-	51	94	98	100	100	-																															

※震災対応に特化した検証指標のため、基準値（H27年度末）は設定しない。

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な学習環境を確保するため、学校の要望も踏まえながら、施設の整備や維持補修等に、計画的に取り組んだ。 ○学校敷地内で工事を行う際は、夏季休業期間を利用するなど、教育活動に支障が生じないよう、学校と連携し、スケジュール等の工夫を行った。 ○給食調理員の熱中症対策として、小学校における給食室の大規模改修工事（ドライ改修工事）の設計を行う際、空調設備の整備についても設計内容に加えた。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】災害復旧については、令和元年度に全て完了した。 ○学校施設については、老朽化が進行しているものが多く、各学校施設が同時期に改修時期を迎えた場合、財政面や人員面から、対応が困難になる恐れがある。 ○小学校の給食室における熱中症対策については、大規模改修工事を行う小学校の給食室に空調設備の整備を行うこととしているが、その他の小学校の給食室に対する対応が必要である。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設の老朽化対策については、学校施設長寿命化計画に沿って、長期的な視点から計画的に長寿命化改良や予防保全を行う。 ○小学校の給食室における熱中症対策について、前室に空調設備を整備していく。

1 事業の属性

政 策 名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施 策 名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	3・(8)
基 本 方 針	安全で良好な教育環境の整備		
主 な 取 組	子どもたちの身近な安全対策の充実		
事業実施所管課(室)名	教育政策課、学校施設課、指導課、健康教育課	事業コード	41 38

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	学校内外における子どもたちの安全確保を図るため、地域社会や関係機関と連携して、子どもたちが安全に安心して過ごせる環境整備を進めるとともに、防災教育などの安全教育の充実を図ります。							
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】学校施設ブロック塀対応経費 <ul style="list-style-type: none"> ・危険又は現行の建築基準法上安全性が確保できないと判断した学校(園)のブロック塀を撤去し、フェンス等を設置した。 ○学校安全推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ・学校安全担当者を対象に、学校安全教育研修会を開催し、各校の取組事例の紹介や災害に備える講話を実施した。 ・教職員、PTA、道路管理者及び警察と実施した合同安全点検において、113箇所の危険箇所を抽出し対策に取り組むとともに通学路安全推進会議を通して効果を把握した。(実施数21校) ・学校(園)におけるAEDの維持管理を行った(小中高等学校137校、幼稚園6園)。 ・運動場の遊具施設の点検、修理、撤去等を行った。 ・安全マップを見直し、子どもひなんの家プレートを配布した。 ・消防局と連携し、火災、地震、救急、救助学習等の体験型防災学習を実施した。(小学校19校) 	令和元年度決算額(単位:千円)						
		合計額		財源内訳				
		319,382	国庫支出金	70,668				
		(294,682)		(70,668)				
	※下段()内の金額は復興計画事業分の金額		繰入金	2,210				
				(2,210)				
			繰越金	4,603				
				(4,603)				
			市債	217,200				
				(217,200)				
			一般財源	24,701				
				(1)				
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	実績値				検証値	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度 R5年度
	地震訓練の実施校数(幼・小・中・高)	校	139	140	143	144	144	143 145

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】ブロック塀については、不特定多数の市民が利用する道路に面するものから優先的に撤去した。 ○熊本市通学路交通安全プログラムに基づき、登下校中の事故防止や危険箇所の改善等、継続的な安全対策に取り組んだ。 ○学校安全教育研修会で有識者の講話や各校の取組を紹介し、授業づくりや避難訓練の工夫を促した。 ○通学路合同安全点検については、関係機関と協力し、過去に実施した対策箇所の改善状況を把握した。 ○体験型防災学習にVR機器を活用することで、児童の学習に対する意欲が高まり、効率的な学習ができた。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○【復】ブロック塀の撤去等については、令和元年度に全て完了した。 ○学校安全教育研修会を通じて、学校(園)の地域環境等の実態に応じ、危機管理マニュアルや安全マップを見直した。また、全ての小中学校、幼稚園、高等学校、特別支援学校で地震避難訓練を実施することができた。 ○通学路合同安全点検の結果、対策が必要とされる場合に、関係機関との調整に時間を要するなどの理由により、早期対策が困難な場合がある。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○地震訓練だけでなく、その他の想定を超える自然災害や感染症、事件、事故の発生に備え、地域、関係団体等と連携しながら、安全対策の充実を図っていく。 ○通学路の安全対策について、対策が必要とされた箇所については、引き続き、関係機関と協力し、改善状況の把握に努める。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・1
施策名	学校教育における社会を生き抜く力の育成	(方針)・事業	3・(9)
基本方針	安全で良好な教育環境の整備		
主な取組	家庭や地域社会との連携の強化		
事業実施所管課(室)名	指導課	事業コード	41 39

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	地域の実態に応じたより良い学校運営ができるよう、学校支援ボランティア制度などの活用を通して、家庭や地域社会と連携した学校づくりを進めます。										
実績	○学校・地域連携推進事業 ・地域人材を学校支援ボランティアとして活用することで、特色ある教育活動と地域に開かれた学校づくりを推進した。 ・学校評議員が校(園)長の求めに応じて助言をすることで、校(園)長は地域の意見を把握し、学校運営に反映することができた。 (学校評議員数 645人(小学校422人、中学校178人、幼稚園26人、高等学校等19人))。	令和元年度決算額(単位:千円)									
		合計額						財源内訳			
		1,741						一般財源		1,741	
		(0)								(0)	
		※下段()内の金額は復興計画事業分の金額									
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値				検証値			
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度		
	小中学校の学校支援ボランティアにおける延べ活動者数	人	39,437	38,892	40,383	41,437	37,863	42,000	45,000		

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	○初任者向けの学校支援ボランティア担当者研修会を開催し、手引等を配布して活動の促進に努めた。 ○学校評議員が適切な助言を行えるよう、学校評議員研修会を開催し、本市の教育に関する施策等の周知を図った。
取組による成果と元年度に残った課題	○学校支援ボランティアの延べ活動者数は増加傾向にあったが、R元年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休校により、前年度よりも減少した。また、学校によって登録者数や活動分野の偏りがみられ、必要な人材が十分に確保されていない学校もある。
検証値を踏まえた課題への対応	○学校支援ボランティア活動の促進にあたっては、学校が求める人材や活動分野と、登録者が希望する活動分野を踏まえ、両者のニーズに応えられるようなシステムづくりを検討する。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・2
施策名	生涯を通じた学習・スポーツの振興	(方針)・事業	1・(1)
基本方針	生涯学習社会の構築		
主な取組	生涯学習環境の整備		
事業実施所管課(室)名	青少年教育課	事業コード	42 11

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	民間団体などとのネットワークの強化を図り、多様な学習情報の収集・提供に努めます。								
	家庭教育に関する講座など市民のニーズに応じた学習機会を積極的に提供します。								
	公民館などにおいて市民が学習成果をいかせる機会や場を提供するとともに、市民の主体的な学習や活動を支援します。								
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育団体助成経費 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本市PTA協議会の事業費を補助するなど、児童生徒の健全育成に関する活動を支援した。 ○家庭教育推進経費 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児や小中学生の保護者を対象として、家庭教育セミナーを開催した(開催回数 70回、参加者数 6,391名)。 ・地域における家庭教育力向上に資するため、家庭教育地域リーダーステップアップ研修を開催した(R元年度修了生数 16名)。 	令和元年度決算額(単位:千円)							
		財源内訳							
		合計額	財	源	金	額			
		2,094 (0)	国庫支出金			246 (0)			
※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	一般財源			1,848 (0)					
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値			実績値		検証値	
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本市PTA協議会は、学校や家庭、地域社会とのつなぎ役として重要な役割を担っていることから、様々な課題を共有し、必要に応じて助言等を行うなど、その取組を支援した。 ○家庭教育について、ステップアップ研修を開催し、家庭教育地域リーダーのスキルアップを図った。また、熊本市PTA協議会に働きかけるとともに、教育情報誌withyouを通して幅広く広報し、家庭教育に関する情報提供を行った。
取組による成果と元年度に残った課題	○家庭教育地域リーダーについては、インターネットやSNSへの対応など、ファシリテーターとしてのスキルアップを図る必要がある。
検証値を踏まえた課題への対応	○家庭教育地域リーダーのスキルアップに向け、インターネットやSNSに関する課題に対応したステップアップ研修を開催する。その際、リーダー同士の交流を行い、連携・協力できる関係づくりを図る。

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・2
施策名	生涯を通じた学習・スポーツの振興	(方針)・事業	1・(2)
基本方針	生涯学習社会の構築		
主な取組	図書館・博物館の機能充実		
事業実施所管課(室)名	市立図書館、熊本博物館	事業コード	42 12

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	<p>図書資料の充実・サービスの向上などに取り組み、読書しやすい環境の整備を進めます。また、読書活動啓発の取組を進め、読書活動の振興に努めます。</p> <p>博物館のリニューアルを実施し、展示環境の改善や展示内容の充実を図ります。また、市民のニーズに対応した企画展の開催や、県・学校などと連携した事業展開により魅力ある博物館を目指します。</p>																																													
実績	<p>○資料充実経費 ・各図書館や公民館図書室における機能や利用傾向等を考慮しながら、選書購入を一元的に行い、図書資料の充実を図った。(本市の蔵書数 1,576,057冊)</p> <p>○子ども読書活動推進経費 ・子どもの成長に応じた良書を紹介したリーフレット等の配付や学校に対する掲載図書のセット貸出を実施した。</p> <p>○子ども科学・ものづくり経費 ・自然科学や身近な事象に対する興味・関心を高める目的で、熊本博物館(実験・工作室、講堂)及び塚原歴史民俗資料館において、子ども科学・ものづくり教室を開催した(開催回数28回、延べ参加者数 2,067名)。</p> <p>○特別展等開催経費 ・特別展示室(3室)において、常設展示以外の収蔵資料を公開する特別展、企画展及び共催展を開催し、人文系、自然系の様々な資料を展示した(特別展2回、企画展3回、共催展2回)。</p>	<p>令和元年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>合計額</th> <th>財源金額</th> </tr> <tr> <td>482,389</td> <td>22,508</td> </tr> <tr> <td>(648)</td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">※下段()内の金額は復興計画事業分 の金額</td> <td>国庫支出金 224</td> </tr> <tr> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>県支出金 648</td> </tr> <tr> <td>(648)</td> </tr> <tr> <td>その他 12,924</td> </tr> <tr> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>一般財源 446,085</td> </tr> <tr> <td>(0)</td> </tr> </table>	財源内訳		合計額	財源金額	482,389	22,508	(648)	(0)	※下段()内の金額は復興計画事業分 の金額	国庫支出金 224	(0)	県支出金 648	(648)	その他 12,924	(0)	一般財源 446,085	(0)																											
		財源内訳																																												
合計額	財源金額																																													
482,389	22,508																																													
(648)	(0)																																													
※下段()内の金額は復興計画事業分 の金額	国庫支出金 224																																													
	(0)																																													
	県支出金 648																																													
	(648)																																													
その他 12,924																																														
(0)																																														
一般財源 446,085																																														
(0)																																														
検証指標、実績値の状況等	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">検証指標</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>基準値</th> <th colspan="5">実績値</th> <th colspan="2">検証値</th> </tr> <tr> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> <th>R元年度</th> <th>R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市立図書館、分館、プラザ図書館の入館者数</td> <td>万人</td> <td>143.6</td> <td>111.2</td> <td>127.1</td> <td>128.6</td> <td>117.7</td> <td>146</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	検証指標	単位	基準値	実績値					検証値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度	市立図書館、分館、プラザ図書館の入館者数	万人	143.6	111.2	127.1	128.6	117.7	146	150																			
検証指標	単位			基準値	実績値					検証値																																				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																																						
市立図書館、分館、プラザ図書館の入館者数	万人	143.6	111.2	127.1	128.6	117.7	146	150																																						

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<p>○市民の利便性の向上を図るため、11月に、電子書籍の貸出等を行う電子図書館を開館した。</p> <p>○子ども科学・ものづくり教室は、大学、高等専門学校、企業、NPO及び任意の教育団体と連携し、内容を充実させることで、参加者の増加に努めた。その他、派遣依頼を受け、公民館講座やPTA活動の場で出前講座を行った。</p> <p>○特別展、企画展及び共催展の開催にあたっては、各種広報媒体を活用し、周知に努めた。</p>
取組による成果と元年度に残った課題	<p>○図書の貸出については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う休館の影響で、年間貸出冊数が減少した。一方、電子書籍の貸出は、休館した3月以降、大きく増加した。</p> <p>○子ども科学・ものづくり教室では、子どもたちに科学実験や科学工作の楽しさを知ってもらうことができた。より魅力的な教室にするため、事例調査や内容の工夫等を行うとともに、教育研究サークルや大学等との連携を一層深め、協働的な活動を展開していく必要がある。</p> <p>○市民や子どもたちの興味や関心に応える魅力的な講座及び各種展示会等の企画が必要である。</p>
検証値を踏まえた課題への対応	<p>○電子図書館は今後も高いニーズが予想されることから、コンテンツの充実やサービスの拡大に努める。</p> <p>○多くの市民に生涯学習の機会を提供するため、人文・自然科学の各分野の講座等を拡充し、子ども科学ものづくり教室をはじめとする教育支援活動を強化するとともに、参加者のニーズに応じて内容の充実や改善等に努める。また、館内外に協力者を確保するなど、そのための支援体制を整える。</p> <p>○企画展、特別展、共催展等については、新型コロナウイルス感染症拡大の防止に努めながら、様々な展示会を開催し、来館者の満足度や集客力の向上を図る。</p>

1 事業の属性

政策名	豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	章・節	4・2
施策名	生涯を通じた学習・スポーツの振興	(方針)・事業	1・(3)
基本方針	生涯学習社会の構築		
主な取組	青少年の健全育成		
事業実施所管課(室)名	青少年教育課	事業コード	42 13

教育委員会事務局

2 事業の目的・成果

目的	中学生の地域交流や冒険遊び場（プレイパーク）の開催など、地域交流の機会や活動拠点の充実を図ります。																																	
	児童が放課後などを安全安心に過ごすため、放課後児童クラブの充実を図ります。																																	
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年国内交流経費 <ul style="list-style-type: none"> ・国内の友好姉妹都市である福井市と、青少年の交流活動を行った。 ○青少年国際交流経費 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイデルベルク市との国際交流については、民間委託事業として、受入を実施した。 ○青少年センター活動経費 <ul style="list-style-type: none"> ・中心街や地域での街頭指導活動を実施するとともに、広報啓発活動を展開した。 ○児童育成クラブ管理運営経費（政策） <ul style="list-style-type: none"> ・放課後や長期休業期間を安全に過ごせるように児童育成クラブの管理運営及び民間補助を行った（児童育成クラブ設置校数92校区、入会児童数 6,803名）。 ○児童育成クラブ施設整備経費 <ul style="list-style-type: none"> ・入会児童数の増加等を踏まえ、児童育成クラブの施設整備を行った（9箇所（プレハブ1箇所、教室共用7箇所、教室変更1箇所））。 	<p>令和元年度決算額(単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">合計額</th> <th colspan="2">財源内訳</th> </tr> <tr> <th>財源</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>785,780</td> <td></td> <td>233,221</td> </tr> <tr> <td>(0)</td> <td>分担金及び負担金</td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">※下段()内の金額は復興計画事業分の金額</td> <td>国庫支出金</td> <td>226,070</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td>199,678</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>諸収入</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(0)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td>126,681</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(0)</td> </tr> </tbody> </table>	合計額	財源内訳		財源	金額	785,780		233,221	(0)	分担金及び負担金	(0)	※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	国庫支出金	226,070		(0)	県支出金	199,678		(0)		諸収入	130			(0)		一般財源	126,681			(0)
		合計額		財源内訳																														
財源	金額																																	
785,780		233,221																																
(0)	分担金及び負担金	(0)																																
※下段()内の金額は復興計画事業分の金額	国庫支出金	226,070																																
		(0)																																
	県支出金	199,678																																
		(0)																																
	諸収入	130																																
		(0)																																
	一般財源	126,681																																
		(0)																																
検証指標、実績値の状況等	検証指標	単位	基準値	実績値				検証値																										
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R元年度	R5年度																									

3 工夫と成果・課題等

取組において工夫してきた点	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年国際交流については、委託事業とすることで、民間団体の国際交流に関するノウハウを活用した交流団員への研修等、より専門的で効果的な内容を実施できた。 ○児童育成クラブについては、喫緊の課題である支援員の確保に向け、求人情報誌を利用した求人を継続するとともに、市独自で放課後児童支援員認定資格研修を実施した。 ○児童数の増加に伴い狭隘になった施設的环境を改善するため、学校施設の利活用やプレハブ建設による分離増設等を行った。
取組による成果と元年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> ○児童育成クラブについては、研修を実施したことで約8割の支援員が資格を保有するに至った。 ○児童育成クラブの4年生以上の受入れについては、直営80クラブのうち4クラブで実施しているが、拡大にあたっては、面積基準や支援員数の配置基準等をクリアすることが課題となっている。 ○児童育成クラブの施設整備については、引き続き、狭隘な施設の分離増設等が課題である。
検証値を踏まえた課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○児童育成クラブについては、新たに月給制支援員の勤務形態を設け、支援員の働く意欲の向上や人材の確保を図る。 ○児童育成クラブの4年生以上の受入れの拡大については、今後ニーズ調査を実施し、受入れ実施済みクラブでの検証を踏まえて、面積基準の充足等を計画的に実施していく。 ○児童育成クラブの施設整備については、狭隘なクラブから実施することとしており、引き続き学校施設の利活用をはじめ、必要に応じてプレハブの建設を行いながら、面積基準の充足に努める。